

太宰治ゆかりの古民家 かなぎ元気村「かだるべえ」

かやぶき屋根と

体験工房の修復をご支援ください。

寄付金趣意書

郷土の文化を活かしたまちづくり

特定非営利活動法人 かなぎ元気倶楽部
専務理事 伊藤一弘



ご挨拶

平素私どもは旧金木町において観光を媒体とした地域づくり活動をしております。私どもが目指す地域づくりの方向は、
① 「自分たちの住むまちを、自分たちの手で住み続けられるようにしたい」
② 「地域に暮らす人たちが、地域に必要な仕事を自分たちで作り出していく働き方をしたい」
その手段として、おもてなしの活動を通して金木を好きになってくれる人々を増殖し、交流人口を増やすことで人口減少に悩む地域の活性化につなげたいと考えています。皆様が気軽に憩える場所、それが、かなぎ元気村「かだるべえ」です。

本題の趣旨

かなぎ元気村「かだるべえ」は地区に現存する最古の古民家であり、太宰治の生家旧津島家の親戚で現在茅ヶ崎市に居住する傍島（そばじま）家から6年前に取得保存を懇願され、ほぼボランティアの手で2年間の歳月を費やして修復した地域の宝物です。

しかしながら、明治4年（1871）に建築され140年以上の歳月を経た建物は劣化が進み、特に茅葺き屋根の状態は現在最悪で、豪雨の際は10数カ所にも及ぶ雨漏りに悩まされ、その修復は施設の居住環境において極めて緊急性の高い問題です。また、木工体験工房として活用している米蔵下屋もまた同じような状態になっています。

かなぎ元気村は民間施設でありながら、都市農村・世代間交流、生活文化伝承や地域学習の場として奥津軽では唯一無二の施設ですが、私どもはNPO法人であるため、ソフト事業の助成は得やすいものの、ハード面の助成を得ることが叶わず、建物の維持管理においては慢性的資金難に喘いでおります。

つきましては、私どもの趣意をご理解いただいた上で、これまでご愛顧いただいた皆様や、活動にご賛同いただける方々からのご支援をお願い申し上げます。

寄付金募集要項

1. 目標金額

500万円 内訳：茅葺き屋根工事 200万円（最優先のため現在進行中）

米蔵下屋改修工事 300万円

2. 資金使途

かなぎ元気村母屋の茅葺き屋根を、地元職人の手による「伝統工法」で葺き替えするための工事費・材料費に充当いたします。米蔵下屋は本法人スタッフで工事可能です。

3. 募集期間

平成27年3月から目標金額に達するまで

4. 寄付金額

個人・法人を問わず・・・1口100,000円

（金額の多寡にかかわらず有難くお受けいたします。複数口でご寄附いただくと幸いです）

5. 寄付特典（個人・法人共通）

1口100,000円につき5年間元気村宿泊無料

（1名様単位、回数無制限、食事代は別 同行者は50%割引）

複数口の方は、10年間無料＋プレミアム特典

（1名様単位、回数無制限、食事代は別 同行者は50%割引）

（1名様単位、斜陽館・津軽三味線会館の入館無料、喫茶店「駅舎」のドリンク無料）

複数口の方は、1口単位に分割することも可能です。（特典は1口と同じ）

※寄付の性質上、特典の転売は禁止とさせていただきます。

原則的に1グループ10名以内のご利用とさせていただきます。

あらかじめ先行予約がある場合は調整のご相談をさせていただきます。

【参考】

費用明細（1泊あたり）	現行金額	本人特典	同行者特典
元気村施設使用料	4,000円	無料	2,000円
寝具賃貸料（町内業者）	1,500円	無料	750円
夕食 鄙家お膳	2,000円	2,000円	2,000円
朝食	1,000円	1,000円	1,000円
合計	8,500円	3,000円	5,750円

太宰治記念館「斜陽館」・津軽三味線会館共通入館券 900円

喫茶店「駅舎」珈琲 400円

6. 募金責任者 特定非営利活動法人かなぎ元気倶楽部 代表理事 今 誠康

法人所在地および本部事務局

〒037-0202 青森県五所川原市金木町朝日山189-3 津軽三味線会館

Tel 0173-54-1616 fax 0173-54-1023

mail honbu@kanagi-gc.net

HP URL <http://kanagi-gc.net>

寄付申込書にご記入いただき、以下の口座へお振込みをお願いいたします。

- ・銀行名 : 青森銀行金木支店
- ・口座番号 : 普通預金 1030522
- ・口座名 : 特非) かなぎ元気倶楽部 ふりがな トクヒ) カナギゲンキクラブ



傍島家と津島家

明治6年、蒔田村に生まれた傍島征之助氏は東奥義塾高等学校を経て東京法律学校を卒業し、金木村役場書記を経て、北津軽郡会議員、県議会議員を長きに亘って務めました。旧津島家とは、子息正守氏のもとに津島修治(太宰治)の従姉、ふみが嫁いだことによって縁戚となり、当主津島源右衛門氏とは極めて親しい間柄となりました。さらに、子息正守氏は教育者として津島修治(太宰治)の恩師であり、よき理解者でもありました。傍島家には太宰自身がよく遊びに行っていたそうです。傍島家は親子二代にわたり、津島家の身代や源右衛門氏と長男文治氏の政治活動を支え、津島家が創設した金木銀行頭取としても地域経済の振興に尽力しました。

都市農村交流・世代間交流・体験活動拠点

かなぎ元気村「かだるべえ」
 太宰治ゆかりの地 旧傍島家住宅(築四十年)が体験施設として生まれ変わりました。

文庫蔵展示
 「蒔田地区・傍島家と津島家・
 金木銀行」展



※茅葺屋根の現状について
 前面、後面ともに経年のへたりと鳥害による損傷が激しく、雨漏りが10数カ所にも及ぶため、豪雨の時は通常の活動ができない状態になっています。

※米蔵下屋の現状について
 全体的に柱が腐朽して傾きが激しく、板張りの外壁は隙間だらけで、さらにトタン屋根も腐朽が激しい状態です。



田舎の家という意味をもつ隠れ家
茶房 鄙家 (ひなや)
 営業時間 / 10:00~16:00 定休日 / 毎週水曜日・12月29日



かなぎ元気村「かだるべえ」内にある茶房 鄙家(ひなや)。田舎のぬくもりを感じることができる、心にも体にも優しい自然派志向のメニューを提供しています。

団体食事予約 定員45名様まで

団体向けメニュー

四季折々の地元食材でご用意しております。ご予算に応じて承ります。



※写真はイメージです。実際は季節により異なります。

